

ソウゾウしよう、未来。

Arch

岩手県立大学・広報誌[アーチ]

2022.03

82

Spring

学生たちが開発したモクテルでカンパイ!!



New Generation Action!

KENDAI NAVI

特集 未来ソウゾウ

ソウゾウCAMPUS

ソウゾウ LABO

KENDAI NEWS



岩手県立大学
Iwate Prefectural University

ソウゾウの
ソノサキ。

Graduation Message 01

岩手県若者女性協働推進室

野中 里菜 さん

2016年3月総合政策研究科博士前期課程修了



大学以外のフィールドを持ち、
経験することも大切な学び

学生時代に「復興girls!」(※)を立ち上げ、被災企業の支援活動を行っていた私は、ずっと「復興の力になりたい」という強い想いがありました。大学院で被災地の地域コミュニティを研究し、県職員になったのも、その想いを実現するため。学生時代の出会いや学びが、今の私につながっています。

現在は、若者を対象としたいわて若者カフェの運営やイベントの企画などに携わっていますが、前職の宮古農林センターでは宮古市の農産物の六次産業化を担当。生産者、宮古水産高校、水産加工会社、缶詰会社、そして復興girls&boysの学生たちをつなぎ、「鯖しいたけ煮付缶詰」の開発・販売をコーディネートしました。一個人や一企業だけではできないことも、組み合わせることで大きな力になる。それを形にし、収益に反映できたことで、連携した全ての皆さんにも喜んでもらえました。

学生時代は、良い意味で大目に見てもらえる時期。大学以外のフィールドをもう一つ作り、仲間と一緒にたくさん失敗して、たくさん学んでください。大学とは違う世界に飛び込むことで、見えてくること必ずあると思いますから。



野中さんがコーディネートを担当し、ふるさと納税返礼品(宮古市)にも選ばれた「鯖しいたけ煮付缶詰」。復興girls&boys(※)はラベルデザインやプレ販売などで協力し、PRをサポート。卒業後も後輩たちとのつながりを大切にしていたことで、実現できたコラボレーションです。

(※)女子学生で立ち上げた「復興girls!」は、のちに男子学生も参加したことで「復興girls&boys」に名称変更した。



岩手県立大学
Iwate Prefectural University

看護学部 | 社会福祉学部 | ソフトウェア情報学部 | 総合政策学部 | 盛岡短期大学部 | 宮古短期大学部 | 看護学研究科 | 社会福祉学研究科 | ソフトウェア情報学研究科 | 総合政策研究科

〒020-0693 岩手県滝沢市菓子152-52 [URL] <http://www.iwate-pu.ac.jp/> [e-mail] management@ml.iwate-pu.ac.jp
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001

Copyright © 2022 Iwate Prefectural University. ALL RIGHT RESERVED. 発行:2022年3月31日

私たちは、学生の広報部隊として活動するCA(キャンパスアテンダント)。
楽しいキャンパスライフや大学生活の魅力をいろいろご紹介!

KENDAI NAVI

テーマ

県大生の1日 & 持ちモノ

私たちCAのメンバーに、普段の1日の予定とカバンの中身を紹介してもらいました!
ぜひ参考にしてみてください♪



あおびー
総合政策学部1年



せんちゃん
社会福祉学部2年

1日のスケジュール

サークルも楽しい!!

- 起床【睡眠時間5時間20分】 05:50
- 朝食 06:20
- 移動【電車】 06:40~08:40
- 授業 08:50~12:00
- 昼ご飯【学食】 12:00~13:00
- 授業 13:00~14:30
- 課題【空きコマを活用】 14:40~16:10
- サークル【アカベラの練習】 16:20~18:30
- 帰宅 22:10
- 夕食・入浴 22:20~23:10
- 課題 23:30~00:20
- 就寝 00:30

1日のスケジュール

授業の後はバイトへ!

- 起床【睡眠時間6時間】 06:30
- 朝食 07:00
- 移動【バス】 07:30~08:30
- 授業 08:50~12:00
- 昼ご飯【学食】 12:00~13:00
- 授業 13:00~14:30
- 移動 14:40~15:30
- アルバイト 16:00~19:00
- 帰宅 19:30
- 夕食・入浴 19:40~20:30
- 課題・自由 21:10~00:20
- 就寝 00:30

大学生になるとスケジュールを自分で管理する機会が増えます!そのため、手帳は必須ですね!資料が多い授業もあるため、ファイルに綺麗にまとめると使いやすいのでおすすめです!冬は特に予備のマスクやカイロを持っておくといいかもかもしれません!



授業で使う教科書や資料は常にカバンの中に入っています!空きコマや移動時間などで読める本を入れておく時間を有効活用できるのでおすすめです!ポーチ類は財布、キーケースなど用途に分けておく使いやすいですよ!



New Generation Action!

スポーツやボランティア、同好会など、課外活動はもう一つの学びの場。
いろいろなことに全力で取り組む県大生たちの活動を紹介します。



表紙の出演学生



グループリーダーとして商品開発を牽引した3人。左から総合政策学部3年の田頭知樹さん、社会福祉学部3年の伊藤道蔵さん、社会福祉学部3年の寺田暖(のん)さん。

学生たちが開発したモクテルは、宮古シシモクテル、軽米さるなしモクテル、岩泉ほおずきモクテルの3種類。3地域の特産品を生かし、9ヶ月かけて作り上げた自信作だ。



DATA

復興girls&boys*

東日本大震災で被害を受けた被災地の仕事の手助けをするため、2011年5月に設立。被災企業の復興によって雇用が生まれ、地域が元気になっていくと考え、学生有志10名で活動をスタート。現在は、沿岸地域の企業の商品の受託販売やPRをメインに、岩手県内外のイベントに出向き、商品販売や情報発信活動を行っている。メンバーは現在、40名。

商品開発を通して被災地支援、三陸の魅力を多くの人々に!

2021年8月、学生のアイデアを取り入れた新しいモクテルが発売され、注目を集めました。モクテルとは、お酒が苦手な人でも楽しめるノンアルコールカクテルのこと。開発を手がけたのは、本学の復興girls&boysとみちのくコカ・コーラボトリング。三陸地域の特産品を使ったオリジナルモクテルを作り、好評を博しました。

復興girls&boysは、三陸地域の被災企業の支援を中心に、企業の商品販売やPRなどを行う学生団体です。コロナ禍で活動もままならない中、少しでも力になりたいと商品開発に協力。学生たちは3グループに分かれ、食材選びから試作まで、試行錯誤を繰り返しながらベストな配合を模索。協働企業や飲食店のアドバイスを反映させ、納得のいく味に仕上げました。

「知らない食材も多く、ドリンクの開発も初めて。学ぶことも多く良い経験になりましたが、これを機に三陸の特産品を多くの人に知ってもらえたら嬉しいですよ」と、学生たち。彼らが目指すのは、企業支援や交流を通して、新たなつながりを広げ、三陸を元気にすること。その想いは、先輩から後輩へと確実に受け継がれています。



企業や自治体との連携で就業力と実践力を育てる！



Case Study 1



Case Study 2

Case Study 3

企業や自治体との連携で 就業力と実践力を 育てる！

単に知識を吸収するだけでなく、仕事を意識して学問に取り組むことは、学生たちの進路に大きな影響を与えます。岩手県立大学では、基盤教育や各学部の専門課程において、様々なキャリア学習科目を取り入れています。今回は、企業や自治体と連携して行っている3学部のキャリア教育をご紹介します。

Case Study 1

学生と企業のコラボで いわて牛を売り込め！

2021年10月30日、盛岡駅ビルフェザンの1階広場「パティオ」で、いわて牛を紹介するパネルやいわて牛の特製弁当の販売ブースなどが設けられ、多くの人々に賑わいました。これを企画したのは、総合政策学部の学生たち。「キャリア・デザイン」の授業の課外活動として、学生有志がフェザンでのイベントに参加しました。

この「キャリア・デザイン」とは、実社会でも通用する就業力を高めることを目的に、1〜3年次まで行われる授業のこと。集大成となる3年次には、盛岡駅ビル・フェザンや地元企業と協働し、商品開発などを行うプロジェクトに取り組んでいます。

今年度は「JA全農いわてが参画し、「いわて牛が地元ゆかりの人に愛される仕組みを考えよう」をテーマに、4月から7月の4か月間、3年生113名がPRの企画に取り組みました。学生たちは個別に企画を考え、グループに分かれ、いわて牛を取り巻く課題の考察やターゲットの設定、課題解決のための企画出しまで熱心に議論。グルー

プごとにまとめた企画案は最終審査を行い、最優秀賞に決まった案は実現を目指して企画を進めています。

また、この授業の一環として、学生有志を募り、フェザンで販促イベントも開催。学生たちは企画を検討し、親子連れで楽しめるクイズや塗り絵などを用意する等、イベントを盛り上げていました。

「授業を通して企業と協働することは、地元企業を知る良い機会であり、学生に多くの発見や気づきを与えます。仕事のプロセスを体験することで、企画力や調整力、「コミュニケーション力」などが身につきますし、グループワークを通して組織で動く意識が芽生えます。また、企業にとっても、購買者層である若い世代の考えや感覚に触れる機会になると好評です。今年度でプロジェクトも7回目ですが、失敗を恐れずトライしようとする気持ちが育っていると感じますね」と、総合政策学部長の高嶋裕一教授。

このように総合政策学部では、「キャリア・デザイン」の授業を通し、1年次から3年次まで段階的に学ぶことによって、社会に対する意識や考え方を深め、自ら発想し、行動できる力を育てています。

from Student

学生有志のプロジェクトリーダー
舘柳 明香里さん
[総合政策学部・3年]



私はイベントの企画を手がけたのですが、どうすればイベントに興味を持ってもらえるのか…お客様の立場になって考えることの難しさとお客さまを学びました。リーダーになったことで責任感が生まれ、スケジュール調整や仲間への連絡にも率先して動き、自主的に行動する力が身についたように思います。

from Company

尾形 泰道さん
[JA全農いわて畜産販売課]



学生たちの提案は、大人とは違う視点のアイデアが多く、いろいろな気づきや学びがありました。このプロジェクトを通して、岩手の良さやいいものを知ってもらい、仲間と一緒に達成感を共有できること、人に喜んでもらえることの素晴らしさなど、仕事の価値を実感してもらえたら嬉しいです。



企業や自治体との連携で就業力と実践力を育てる！



企業や自治体との連携で就業力と実践力を育てる！



システム開発をグループで検討中



モブプログラミングの様子



3 **課題を解決するシステムを自分たちの手でつくる**

ソフトウェア情報学部では、ICT/IoTを用いた新たなサービスを創出できる「イノベーション人材」の育成を目指し、学生の主体的な教育・研究・創造を促すため、実践的な学習プログラムを取り入れています。なかでも、第一線で活躍する企業のシステム技術者と新たなシステム開発に取り組むことができるのが、3年次に行われる「システムデザイン実践論」の授業です。

令和3年度の課題解決のテーマは、

コロナ禍のため学外ではなく「大学内」で探すことにしました。

まず、学生たちは大学内を歩きながら、気になる課題を発見。購買や食堂の混雑を可視化できたら、もっとスムーズに利用できるのではないかと。体育館やジムの予約システムは作れないか？ など、見つけ出した課題や解決するアイデアを、参加企業の提供技術を使って実際に開発。企画から設計、実装までの一連の流れを体験することができました。経験豊富な企業人と一緒に取り組むことで、実践的な仕事の流れが身につくと同時に、幅広い視点や発想を学ぶことができる、学生たちにも好評です。

今回協力したのは、(株)イーアール

アイ(株)ゴーイング・ドットコム、東京システムズ(株)、(株)びーぶるの4社。「地域の人材育成に貢献することが第一の目的ですが、学生たちの新たな視点や発想に触られることは、我々にとっても刺激になります。また、学生たちも自分の提案が形になるプロセスを体験できるのは、大きな学びとなるのではないのでしょうか」と、企業担当者は口を揃えます。

今後とも企業の技術者と学生たちが直に議論する場を設けることで、学生たちのモチベーションを上げ、実際の仕事で必要となる問題発見能力や課題解決能力を育てていきます。

2 **岩手県産の原木乾いたけを若者に知ってもらおうPRをしよう**

学生たちのキャリアを意識した取組は、盛岡短期大学部生活科学科の食物栄養学専攻でも行われています。コンビニエンスストアのお弁当やレストランのメニュー開発など、これまでも地元企業や自治体などと協働して、様々な商品開発を行ってきました。

2020年度は、「右手の農業」をテーマとした総合政策学部の「キャリア・デザイン」の授業と連携し、岩手県産乾いたけを使ったレシピを考案。これをきっかけとして2021年度は、岩手県林業振興課からの依頼で、県産乾いたけの販売促進事業に参加することになりました。具体的には、昨年度に考案した乾いたけのレシピを活用し、調理動画とリーフレットを作成。有志の学生4名は、PRツールの検討を始め、先輩が考案したレシピのブラッシュアップと調理動画の撮影に協力しました。

「乾いたけは若い世代の消費量が少ないことから、学生たちに新たな宣伝・販売方法を検討してもらったのですが、我々では考えつかなかったアイディ



「乾いたけ入り餃子」の作り方はこちらの動画をどうぞ



乾いたけ入り餃子



乾いたけのツナ・チーズのせ



「乾いたけのラーメン」の作り方はこちらの動画をどうぞ



「こりやチキンと乾いたけ和風ピザトースト」の作り方はこちらの動画をどうぞ



てりやきチキンと乾いたけ和風ピザトースト



乾いたけ入りグラタン



「乾いたけ入りラーメン」の作り方はこちらの動画をどうぞ

アもあり、新鮮でした。食材の魅力を理解した学生たちにPRしてもらったことで、乾いたけに興味を持つきっかけになればと思っています。すくなく、林業振興課・振興担当課長の田村聡さんは期待を寄せます。

有志として参加した高谷佳織さん(2年)は、「もとのレシピをさらに改善するため、みんなで意見を出し合いながら何度も試作を重ねました。しいたけの味わいや食感を生かすよう調理するのは大変でしたが、動画撮影に携わることによって貴重な経験をする事ができました」と、振り返ります。

今回は課外活動での参加でしたが、行政や地元企業との協働は、学生が実社会の仕事に触れ、多くの学びを得る機会であると同時に、地域貢献にもつながる取組です。地域に根ざす大学として、今後も様々な地域の課題に取り組んでいきたいと考えています。

高谷 佳織さん
【盛岡短期大学部・2年】



← 学生の動画撮影の様子、乾いたけの魅力や上手な戻し方の動画はこちら



ソウゾウ_Campus02



みんなで力を合わせて蒼翔祭(大学祭)を開催、
乗り越えた経験が学生の糧になる

スポーツ祭を楽しむ学生たち

蒼翔祭(大学祭)の様子

新型コロナウイルス感染症は、大学生活にも大きな影響を与えました。宮古短期大学部でもこの2年間は、感染に細心の注意を払いながら授業や行事を実施。今年度のスポーツ祭や蒼翔祭(大学祭)も、様子を見ながら開催の可否を決めることになりました。

この状況に気を揉んでいたのは、学内イベントを企画・運営する学生会の学生たち。「スポーツ祭と蒼翔祭を一緒にやることが決まったのは、9月下旬。準備期間は2週間くらいでしたから本当に大変でしたと、学生会会長の佐藤良樹さん(2年)は振り返ります。時間のない中、イベント実施の主力である2年生は進学や就職活動と並行しながら準備しなければなりません。「コロナ対策を始め規制の多い中、いろんなことを同時に進めなければいけません。みんなの助けがなければ実現できませんでした」と、副会長の下曾根幸徳さん(2年)。他サークルの学生たちも協力し、10月23日・24日に行われたスポーツ祭と蒼翔祭は無事に成功。学内だけの開催でしたが、笑顔と歓声に包まれた2日間でした。

「イベントを通して調整力や実行力が身につくなど、多くの学びがありました。が、みんなで達成できたことが何より嬉しい」と、佐藤さん。仲間と苦労を乗り越えた経験は、学生時代の大切な思い出になりました。

ソウゾウ_Campus01



学びのつまずきを
解決しながら、

教え合い、
学び合=文化を育む

学習支援コーナーの様子

渡部大基さん(修士1年)と平慎之介さん(大学1年)左

「授業で学んだことが理解できない」「プログラミングのやり方がわからない」など、学びで困ったことを解決してくれる場があります。それは、ソフトウェア情報学部の学部生・大学院生を対象に、学びをサポートする「学習支援コーナー」です。指導役を担当するのは、チューターと呼ばれる学部生と大学院生たち。距離の近い学生同士で教え合い、学び合うことで、学習上の問題を解決し、自立して学べる力を身につけることを目的としています。

学習支援コーナーには専任の職員が常駐し、相談に来る学生一人ひとりに合ったチューターをマッチング。学力レベルや希望する指導のスタイルなどを把握し、ストレスなく学べるよう細やかに配慮してくれまます。2013年度から始まったこのコーナーに寄せられる学習相談は、年間にして、延べ1000件以上。マンツーマンの指導のほか、プログラミング講座やドローン講座、中国語講座など、チューターの学生たちが自ら企画した様々な講座もあり、誰でも参加できます。

ソフトウェア情報学部ではこうした場を通じて、全体の学力を底上げしながら、日常的に教え合い、学び合う文化をつくり、学生たちの自主性や学ぶ姿勢を育んでいます。

国際社会への意識を広げ、異文化に触れる機会を守る

コロナ禍によって、世界の状況は大きく変わりました。この難しい時代に、私たちはどのように世界と向き合い、学んでいくべきなのか。グローバル社会における人材育成に力を注いできた本学が、コロナ禍の今、取り組んでいる「国際教育」についてご紹介します。



impression

増子 葵咲さん

[盛岡短期大学部・国際文化学科・1年]

オンライン授業では実際に話す場面が多かったので、コンプレックスだった発音が鍛えられ、会話力が上達したと思います。好きな分野なのでとても楽しく、50分授業があっという間でした。トウミとなった韓国の女子学生とはLINEで会話し、好きな食べ物や趣味の話で盛り上がり、スタンプをもらったりしました。



impression

野辺地 鈴華さん

[盛岡短期大学部・国際文化学科・2年]

中学時代から韓国に興味を持っていたので、海外研修の中止はとても残念でした。でも、オンライン授業で韓国の文化や日常生活を感じられたことは楽しく、多くの学びを得ることができたと思います。韓国語も最初はわからなかったのですが、だんだん耳が慣れ、2週間目くらいから理解できるようになりました。

オンラインで韓国の学生たちと交流し、会話力とコミュニケーション力を深める

グローバル社会が進化する今、若手に暮らしていようとも、世界で起こっている様々な問題は決して他人事ではありません。これからの若者たちに求められるのは、自分の身の回りに起きる出来事や地域の課題などを、世界的な視野で俯瞰して捉える力と感性を磨くことです。

岩手県立大学では、世界と足並みを揃えてグローバルな取組を進めていくため、2019年5月に国連アカデミック・インパクト(※)に加盟。盛岡短期大学部国際文化学科では、地域から世界へと視野を広げ、国際人としての知見を身につけるため、多様な文化を学べる様々なカリキュラムを用意しています。

しかし、2020年から世界に蔓延した新型コロナウイルス感染症によって状況は一変、大学の授業も変更を余儀なくされました。例年であれば、1年次の「国際文化理解演習」において、アメリカまたは韓国での海外研修が行われていましたが、2020年度はやむなく中止。2021年度は、オンラインで慶熙大学校国際教育院の韓国語授業が行われることになり、7名の学生が受講しました。

受講期間は3週間、午前中は韓国語の文法の学びと様々なシチュエーションの中でスピーキング能力を磨き、午後はK-POP、韓国ドラマ、ハンゲルカリグラフィなどの文化を学びます。オンライン授業は、学生が好きな場所で行うことができるほか、少人数クラスのため先生から丁寧な指導が受けられることがメリット。また、「トウミ」という慶熙大学に在学中の韓国の学生と1対1で交流できるプログラムもあり、それぞれ親交を深めました。

「韓国研修の目的は、ハンゲル、韓国の文化や歴史を学ぶとともに、韓国の学生たちとの交流を通して異文化を理解する際の姿勢を学ぶことにあります。新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度は遠隔による授業を実施しましたが、こちらが想像していた以上に、ハンゲルの習得はもちろんのこと、トウミとの交流も行われ、学生にとって実りある研修となりました」と、国際文化学科の石橋敬太郎教授は話します。コロナ禍であっても、積極的に研修に参加し、少しでも多くのことを吸収しようと語学の習得に励む学生たち。今後は選択肢の一つとして、オンラインを活用した授業を取り入れていくことも想定しています。

(※) 国連アカデミック・インパクト(UNAI)とは、



国連アカデミック・インパクトは、各大学が社会貢献をしながら、国連と世界各国の教育機関の活動を連携させることを目的としたプログラムで、国内でも85機関が加盟(2022年1月現在)。岩手県立大学では、UNAIに関連する様々な取組が行われていることから、2019年5月に加盟しました。

本学では「原則6:国際市民としての意識向上」「原則8:貧困問題への取組」「原則9:持続可能性(SDGs)の推進」「原則10:異文化間の対話や相互理解の促進」以上の4つの原則に取り組んでおり、異文化理解のためのイベントやワークショップ、海外留学を活用した社会課題を解決する学習プログラム、海外の大学とのSDGsの課題に関する活動を実施。グローバル社会における各地域や国、世界における大学の社会的役割を追求していきたいと考えています。

本学の2020年度の国連アカデミック・インパクト活動報告書はこちら



ソウゾウ LABO #01



看護実践研究センター 委員長 高橋教授の講義

Facility **看護実践研究センター**

theme 岩手県の看護の質の向上と県民の健康増進



Outline

岩手県民の健康増進とQOL(※)および岩手県の看護の質の向上に寄与するため、2010年に設立。自律した看護職の継続教育、看護学の実践分野に関する調査研究を行うことを目的とし、2011年より岩手県新人看護職員研修事業を受託し、企画運営を行っている。

※QOL:クオリティオブライフの略

岩手のシンクタンクとして、看護技術の向上や住民の健康をサポート



ウォーキングイベントの様子



滝沢市健康ダンス「イ・ン・ダ」椅子バージョンの制作



滝沢市と協同で作成したパパやママのための沐浴動画

看護師になったものの、実際に働き始めると日々の業務に追われ、スキルを磨く時間が取れない人も多くいます。特に小・中規模の病院は施設において、じっくりと研修期間を取ることさえ難しいのが実情です。看護実践研究センターでは、看護師たちに学びの機会をつくり、看護の質を高めるための教育や看護研究の支援などを通じ、岩手県民の健康増進に取り組んでいます。

具体的に実施しているのは、主に三つの事業。一つは岩手県の委託を受け、新人看護師の合同研修を始め、新人を指導する教育担当者や指導者への研修など、対象別にプログラムを設け、研修の全てを企画・運営しています。特に今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた患者・家族をケアする医療者向けの選択プログラムも用意しています。

本センターは、このように幅広い事業を通じ、臨床現場や市町村とのネットワークを築いていくことで、看護における岩手のシンクタンクとしての機能を深めています。

看護師になったものの、実際に働き始めると日々の業務に追われ、スキルを磨く時間が取れない人も多くいます。特に小・中規模の病院は施設において、じっくりと研修期間を取ることさえ難しいのが実情です。看護実践研究センターでは、看護師たちに学びの機会をつくり、看護の質を高めるための教育や看護研究の支援などを通じ、岩手県民の健康増進に取り組んでいます。

具体的に実施しているのは、主に三つの事業。一つは岩手県の委託を受け、新人看護師の合同研修を始め、新人を指導する教育担当者や指導者への研修など、対象別にプログラムを設け、研修の全てを企画・運営しています。特に今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた患者・家族をケアする医療者向けの選択プログラムも用意しています。

本センターは、このように幅広い事業を通じ、臨床現場や市町村とのネットワークを築いていくことで、看護における岩手のシンクタンクとしての機能を深めています。



←看護実践研究センター

ソウゾウ LABO #02



Cast 社会福祉学部人間福祉学科 **泉 啓** 准教授

theme 依存症の医療史と依存症者のアイデンティティーの変容

Profile

埼玉県出身。法政大学文学部卒、東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。同研究科助手を経て、2017年に岩手県立大学社会福祉学部の講師に就任。休日は、鳥が大好きな9歳の長男と5歳の次男と一緒に森に出かけ、散策や野鳥観察を楽しんでいる。

弱さを認め変容する人間のプロセスを、世の中に公開していく

アルコール依存症に関する研究論文と、研究するアルコール依存症・アノニマスのテキスト。



ゼミの様子

を研究の柱に据えています。医療や社会福祉の領域に属する研究者の多くは、依存症の人々の性格や病歴に共通項を見出そうとしますが、文学部出身の泉准教授は「インタビュー」というアプローチから依存症に對峙。その前提にあるのが、「一人ひとり違う」というスタンスです。「人によって育った環境も違えば、依存症になった経緯も体験も、回復の仕方も違う。言わば、ライフヒストリーが違うんです。共通項を

「依存症とそうでない人の境目は、曖昧なグレーゾーン。誰しもが一線を越える可能性があり、身近なところに様々な問題が潜んでいます。泉准教授は学生たちに、周りや自分の中にあるマイノリティ性を目を向け、生きにくさを抱える人々の問題に関心を持ってもらいたいと願っています。」

ダメだと思いつつ、なぜそんな行動をしてしまっただろうか。どうやって過ちを認め、アイデンティティーの変容を受け入れていくのか。「人間の弱さや頑迷さに関心があるんです。それとそれを正そうとしてきた医学の歴史にも」と話す泉准教授は、アルコールや薬物などの依存症に関する医療の歴史と、依存症を抱える当事者へのインタビューを研究の柱に据えています。

泉准教授が特に注目するのは、世界的な自助グループ「アルコールホリック・アノニマス」が示す12ステップの回復プログラム。そのうち、「傷つけた人々へ埋め合わせ(償い)をする」「弱点を把握し過ちを認める」という2つに重点を置いて、話を聞いています。「依存症の人が自分の弱さを受け入れ、公言できるようになるまではそれぞれ大変な道のりがあります。弱みを見せられない今の世の中で、弱さを自覚し、弱みを伝えていく社会にすることはとても大事。私はこれらの話を世に公開していくことで、問いを投げかけているのかもしれない」。



社会福祉学部人間福祉学科→

編集後記

帰り道、鳥の鳴き声に空を見上げると、大きなVの字を描いて、白鳥たちがシベリアへ渡る姿を見るようになりました。岩手の春はもうすぐです。春は、新しい出会いが待っています。新入生の皆様、岩手県立大学へようこそ。(SS)



岩手県立大学SNS公式アカウント

岩手県立大学のSNS公式アカウントでは、大学の最新情報を発信しています。Twitter (@lwate__puPR)、Facebook (@lwatePU) でフォローしてください。YouTube (lwateprefuniversity) はチャンネル登録をお願いします。



Present!!

岩手県立大学広報誌Archへの御意見・御感想や、広報に関する皆様の御意見をお聞かせください。抽選で10名に1,000円分の「図書カードNEXT」をプレゼントします。以下のURLかQRコードにアクセスして、アンケートフォームからご応募ください。



<https://pro.form-mailer.jp/lp/df709ba2251290>

未来創造基金の報告

大学の教育研究活動をさらに充実させる財源として平成28年度に創設した「岩手県立大学未来創造基金」に、令和3年度は2月末現在で約23件227万円の寄附が寄せられました。寄附をお寄せいただいた皆様に改めて感謝申し上げますとともに、岩手の未来づくりに貢献する教育研究活動をさらに広げていけるよう引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

【基金のお問合せ先】岩手県立大学事務局総務室(管財契約グループ) TEL:019-694-2002 FAX:019-694-2001

【お申込方法】本学ウェブサイト、書面、電話、FAX又は本学所定の振り込み取扱票でお申込み・お振込みください。



KENDAI NEWS

岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。



「ArchTV〜ケンダイライフ〜」を放送

本学の学生の活動や社会で活躍する卒業生を紹介するテレビ番組「ArchTV〜ケンダイライフ〜」を、令和3年7〜9月、11月〜12月の2期にわたり13回放送しました。本学公式YouTubeで、番組の動画を公開しているのではありませんかご覧ください。



大学公式YouTubeチャンネル
再生リスト「Arch TV〜ケンダイライフ〜(2021年制作)」



「LINKtopos 2021」を開催

令和3年9月15・16日、「LINKtopos2021」を開催しました。LINKtoposとは、東日本大震災のボランティア活動を機に全国の公立大学生により結成された「公立大学学生ネットワーク」が運営主体となり、各大学の防災の取組みや地域活動について共有する場として、公立大学協会の協力のもと毎年全国各地で開催されてきた学生大会です。今年度は震災から10年を振り返る大会として、本学での開催となりました。本学の運営学生を中心に、オンライン上で全国の公立大学生約100名とつながり、当時を振り返り、今できることを考え共有する大会となりました。



公開講座をオンラインで!

多様な学習ニーズに対応した公開講座(滝沢キャンパス講座)を、令和3年度は、岩手ケーブルテレビジョン111ch (ICT市民チャンネル) で放送しました。また、本学公式YouTubeチャンネルでも公開しているので、是非ご覧ください。



大学公式YouTubeチャンネル
再生リスト「令和3年度岩手県立大学公開講座・滝沢キャンパス講座」



「Dream Festival with U」を開催

学生組織「Illumination Project with U」と「中央委員会」、「大学祭実行委員会」が協働でイベント「Dream Festival with U」を開催しました。模擬店の出店やサークルのステージ発表、本学のシンボルツリー(ドイツトウヒ)イルミネーション点灯式、そして最後に打ち上げ花火を実施し、雪景色の中、楽しいイベントになりました。



大学公式YouTubeチャンネル
「ArchTV〜ケンダイライフ〜」
【番外編】久しぶりの賑やかな学内イベント」



令和3年度学長奨励賞授与式を実施

令和4年2月15日、令和3年度学長奨励賞授与式が行われました。研究活動、課外活動、社会活動の分野で活躍された14名に学長奨励賞が授与されました。受賞された皆様、おめでとうございます!



看護学部

千葉 真樹/本間 麗
商業施設内で従業員が突然体調不良となった際、偶然居合わせた受賞者2名が、大学での学びを活かし迅速に対応を行い、人命救助に寄与しました。

ソフトウェア情報学研究科

高橋 耕平
国際会議、IEEE International Conference on Cybernetics (CYBCONF 2021) において、Best Paper Awardを受賞しました。また、経営情報学会2021年度年次大会において、優秀萌芽研究賞を受賞しました。

ソフトウェア情報学研究科

近藤 鯛貴/竹田 大将
大学で習得したAI/IoT技術を元にしたベンチャー企業「Defios」を起業し、複数の契約を結ぶなど、研究成果を地域に還元しました。

総合政策学部

海老澤 瑠維/五郎丸 千尋/齋藤 楓/高橋 静香
地域や行政とも連携しながら地域課題について学びを深め、活性化策を企画・立案・実施し、日詰商店街の活性化に寄与しました。

公立大学学生ネットワーク

菊池 眞悠子/田頭 知樹/及川 駿斗/山崎 恵理香/國井 大地
令和3年度公立大学生大会(LINKtopos2021)の運営主体として、関係各所との調整、参加者の管理、大会内容の企画等を行い、事業の円滑な運営に寄与しました。

「デジタルオープンキャンパス2021」を実施

新型コロナウイルス感染症の防止のため、令和3年度もオープンキャンパス(滝沢キャンパス)をオンラインで開催しました(開設期間:令和3年7月〜9月)。動画の一部を本学公式YouTubeチャンネルで公開中ですのではありませんかご覧ください。



大学公式YouTubeチャンネル
再生リスト「デジタルオープンキャンパスCA動画(2021年制作)」



人事情報

【教員の異動等】

退職(令和4年3月31日付け)

看護学部	教授	白畑 範子
看護学部	講師	木地谷 祐子
看護学部	助教	伊東 佐由美
看護学部	助手	斉藤 涼子
看護学部	助手	高橋 亮
社会福祉学部	教授	柏葉 英美
ソフトウェア情報学部	教授	佐々木 淳
ソフトウェア情報学部	教授	バサビ チャウボルティ
ソフトウェア情報学部	准教授	高木 正則
総合政策学部	教授	桑田 但馬
総合政策学部	教授	渋谷 晃太郎
高等教育推進センター	教授	黒岩 幸子
盛岡短期大学部	教授	石橋 敬太郎
宮古短期大学部	准教授	齋藤 香織

採用(令和4年4月1日付け)

看護学部	教授	岡田 みずほ
看護学部	准教授	相墨 生恵
看護学部	准教授	後藤 未央子
看護学部	講師	及川 正広
看護学部	助手	及川 陽子
看護学部	助手	高橋 佑里香
社会福祉学部	講師	紀司 かり
社会福祉学部	講師	鈴木 あゆみ
社会福祉学部	講師	高木 善史
ソフトウェア情報学部	准教授	鈴木 郁美
ソフトウェア情報学部	准教授	山邊 茂之
ソフトウェア情報学部	講師	ニック ステファン
総合政策学部	教授	蒲 敏哉
高等教育推進センター	講師	上野 愛実

鈴木学長が文化功労者に決定

鈴木厚人学長が、令和3年度文化功労者に選ばれました。素粒子物理学の分野において、新たに開発したカムランド実験施設により原子炉ニュートリノ振動現象を世界で初めて観測し、ニュートリノに質量があることを証明するなどの顕著な業績を上げ、素粒子物理学の発展に多大な貢献をしたことが認められました。

